

五戸総合病院での研修を終えて

大阪公立大学医学部附属病院卒後臨床研修センター

研修医 2 年目 山下耕平

五戸総合病院では一カ月間内科で研修させていただいた。午前は外来業務、午後は訪問診療をおこなった。

午前の外来では、主に糖尿病や高血圧などの生活習慣病の方を診ることが多かった。大学での研修では血糖値や血圧が急激に悪化しないように短期間調節することはあったが、慢性疾患の処方に関してはほとんど経験なく、長期の処方の難しさについて考えさせられた。食生活等への介入が大事であることは分かっているが、短時間の外来の中で問題点を見抜いて適切にアドバイスすることは難しかった。今後患者と接する中で一人一人丁寧に考えていく必要があると実感した。

訪問診療では、地域の様々な自宅を訪問した。新郷村のような離れた地域を訪れることもあり、一人で通院するのが難しい患者にとってはかかせないものであることが分かった。訪問診療は、入院や施設入所と比較して、費用面での負担を抑えることができることも有意であると感じさせられた。

地域実習中に、住民に「先生は地域医療についてどう考えるのか」ときかれることがあった。大して意味のない質問なのかもしれないが、私には地域住民の医療に対する関心の高さを感じさせられた。その方は「総合病院って言っているけど、かかりつけ病院と同じことをしているよね」って話された。

私が今回の研修中に感じたのは、五戸総合病院は地域の中でほとんど唯一の病院であるということだ。大阪のような病院であれば、一次も二次も三次も多数の医療機関がある。専門性の高い疾患であっても診てくれるし、診察に納得できないと思えば、他院を受診することもできる。一方で五戸町には五戸総合病院の規模の病院は他にない。特に患者の大多数を占める高齢者にとっては、自力での遠方への移動は困難であり、他の医療機関を受診することは容易ではない。また、コロナ禍で入院や救急車の受け入れ拒否になると、地域の医療体制の崩壊に直結する。良くも悪くもその地域にとって欠かせない役割を果たしているということを実感した。

今回の地域実習では、安藤先生、佐藤先生をはじめとして、医師、看護師、事務の方々には非常に良くしていただいた。厚くお礼申し上げたい。また患者さんは研修医にも関わらず、すごく頼りにしてくれている感じがあった。やりがいを感じると同時に自分が医師であると強く感じさせられ、いつも以上に責任感を実感した。今後は地域実習で学んだこと、感じたことを意識して日々の業務に取り組んでいきたいと思う。